

第1回 自己点検アドバイザリーボード 結果概要

【日 時】 2022年10月26日（水）10:30～12:00

【場 所】 オンライン会議（Zoom）

【参加者】 ㈱NTT データ数理システム・小木しのぶ取締役、実践女子大学・竹内光悦教授、東海大学・山本義郎教授、 統計数理研究所・椿広計所長ほか

【結果概要】

○ 開会ごあいさつ

統計数理研究所・椿広計所長から、PDCAの推進のためには自らの点検・評価が重要、次のプロセスにつながるよう、忌憚のないご意見をお願いしたい旨、ごあいさつ。

1. 統計エキスパート人材育成プロジェクトについて

大学統計教員育成センター・千野雅人センター長から、同プロジェクトの概要について説明。これに対し、次のような質問・意見等があった。

- ・ 研修には、経済学に加え、心理学・社会学など文系の者も多く参加すると良いのではないか。
(⇒ 幅広い専門分野の研修参加者の推薦を参画機関に推奨することなど、検討したい。)
- ・ コンソーシアムの参画機関に企業を加え、産業界とも連携すると良いのではないか。
(⇒ 企業は参画機関になれないが(公募要領)、コンサルテーション演習などでの連携は有効。)
- ・ 大学院での統計学指導を念頭に、専門分野ごとの育成目標人数のようなものを検討すると良いのではないか。
- ・ 3期にわたり30名以上を育成する研修において、現メンターの体制は十分か？
(⇒ メンターは来年度2名増員する予定。各メンターが各期2名程度の研修生を担当できる。)
- ・ 研修生の選考・評価・修了の基準は、客観的なものになっているか？
(⇒ 選考委員会の審査により選考、履修は必修科目と選択科目があり選択科目はポイントで評価、これら要件を満たすと修了を認定。)

2. 自己点検の進め方について

大学統計教員育成センター・千野雅人センター長から、自己点検アンケート票など自己点検の進め方について説明。これに対し、次のような質問・意見等があった。

- Q5-1 事業の現状評価の選択肢は、期待との比較よりも客観的スケール等が良いのではないか。
- Q5-1 は、「本プロジェクトへの当初の期待は何か」と「それに対し現状はどうか」とに設問を分割すると良いのではないか。
- 研修生を派遣していない機関が、中核機関での大学統計教員育成と参画機関での統計エキスパート育成とを混同しないよう、設問の記載に注意が必要。
- 研修中と研修修了後に参画機関内で研修生が活躍する場について、具体的なイメージ等を聴くと良いのではないか。

3. その他

その他、次のような質問・意見があった。

- 最終的に研修生を派遣しない参画機関が発生した場合の対応も考える必要があるのではないか。
(⇒ 最低一人の研修生の派遣が参画機関の要件であり、現時点では全ての機関が派遣の予定。)

(文責：統計数理研究所 大学統計教員育成センター)